



	入路患者			在宅患者		
	不变	显快	全治	不变	显快	全治
知能障害	0	11	0	3	2	0
性格	0	11	0	2	2	0
服药反射	4	3	5	3	1	1
身体发育制止	1	2	2	2	0	0
身体发育制止	2	5	4	3	0	2

6年間の
追跡調査

心身両面での総合的な回復状況をみると、この六年間に著しい改善が十人に、それより軽度の改善が四人に、不変が二人に見られた。このことは表1中で要介補（常時看護）の患者が減り、独自で生活可能の人数が目立っていること、病型では、最も重症である寡（か）動・多動の目立つ型が減っていることに表われている。

▽悪化 栄養障害、身体発育制止が目立った患者が三人いたが、いずれも在宅の重症患者である。

【治療・看護・機能回復訓練の効果】 体重は、自宅看護の入院前二年間は〇・八しかふえなかったのが、入院後の九カ月間には三・六ふえた。在宅患者と入院患者のこの六カ年間の症状の推移を比較すると、軽快、全治は入院の方が多い（表2参照）。

◇立津教授の話 一般に胎児性患者の回復は徐々にしかあらわれないが、私の数カ月の観察期間中に目に見えてよくなったケースもある。他の脳障害にないこと、全く不思議な病気だという印象を受けた。看護を充実して、常に刺激を与え、機能訓練を十分にやれば、思いがけない効果が生じると思う。因はこのさい、思い切った措置をしてほしい。

阿賀野川

いぜん多量の水銀

第二 新潟衛生研が検出

水俣病

が0・01ppm以上になった場合は「要注意」として警戒体制を、魚類の20ppm以上が1ppm

以上の水銀汚染を示した場合には汚染調査し、漁獲自粛の措置などを実施することになっている。
昭和三十九年からは事件直後の三十九年末から廃液を阿賀野川に流すことを中止しているが、この調査ではその後生れた二、三歳魚からもかなりの有機水銀が検出されているところから、同衛生研では同川の川底にはいまだに有機水銀が沈殿し、汚染状態が続いているとみている。

「第二の水俣病」を発生させた阿賀野川は、恐ろしい中毒の原因となる水銀にいまなお汚染されている。特に昭和四十一年水口付近の水口からは異常に多い水銀量が検出されることが、このほど新潟県衛生研究所（茶川室所長）の調査で明らかになった。

この調査は四十年六月から四十二年四月にかけて、同研究所の関口忠吉技師（新潟県衛生研究所）らが阿賀野川と周辺の水、水口、魚類などについて、米田盛業化学者協会が採用している「A

OAC法」で行なった。調査結果によると、阿賀野川の新潟県東蒲原郡津川町から川口までの四十一カ所で採取した水のうち、八カ所の水に0・001から0・002ppm（1ppmは一立方センチに1cc）の水銀が検出された。また付添川でも四十二カ所の水のうち、十一カ所の水から同量の水銀が検出された。水口は

同じ区間の十九カ所の水口を調査したが、うち十五カ所の水口から0・008から461・8ppmの水銀が検出され、特に旧昭電排水口付近のものからは131から461・8ppmという多量の水銀が検出された。

魚類については、阿賀野川の上流、下流の二カ所から十一種類、百三十四尾の川魚を捕え調べたがうち百四尾から0・01から12・0ppmの水銀を検出した。

特にニゴイの場合は、魚齢が多くなるにしたがつて水銀検出量がふえている。調査によると、一

齡魚が0・01から0・03ppm、二齡魚0・03から0・30ppm、四歳魚0・35から3・14ppm、五歳魚1・33から3・47ppmとなっている。

厚生省では「汚染水の浄水装置

厚生省では「汚染水の浄水装置

厚生省では「汚染水の浄水装置